

あいち農産物生産流通レポート

平成18年11月号

地域トピックス		
・一宮地方総合卸売市場「食育市民一人のつどい」が開催されます！ (尾張農林水産事務所)	-----	1
・海部地域農業・農村活性化大会が開催されます (海部農林水産事務所)	-----	2
東日本情報		
・京浜市場愛知県野菜連絡会トマト研究会からの提言について (東京事務所)	-----	3
西日本情報		
・全国物産観光センターを御存知ですか (食育推進課)	-----	5
フラワーページ		
・フラワーデザイナーの考える素材としての花 (ユリフラワーデザインスクール副総長 内山 友樹)	-----	7
青 果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	8
・名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し	-----	9
花 き		
・切花・鉢花の11月の見通し(県内市場)	-----	21
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2006年8月)	-----	25
関連指数	-----	26

今月号は情報サロンの代わりに地域トピックスを2本掲載します。

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所総務課物産情報グループ (03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課 (052)-954-6417

一宮地方総合卸売市場「食育市民一万人のつどい」が開催されます！

一宮地方総合卸売市場は、昭和56年3月に開設され、平成17年度の取扱いは、数量で5万4千トン、金額で101億円と、県内でも有数の地方卸売市場として、生鮮食料品等の円滑な流通に貢献しています。

一宮地方総合卸売市場は、近年の食に対する関心の高まりを受けて、食育の啓発や、地産地消の推進、市場の役割について市民の理解を深めるため、このたび初めての取り組みとして、「食育市民一万人のつどい」を開催します。

この「食育市民一万人のつどい」では、「見て、ふれて、食べて親子で体験しよう」をテーマに、食に関する様々なイベントやパネル等の展示、農産物の即売会などが予定されています。

この機会に、是非、食について楽しく学んでみてください。

- ・ テーマ：食育市民一万人のつどい
～見て、ふれて、食べて親子で体験しよう～
- ・ 主催：食育市民一万人のつどい実行委員会
(会長：谷一夫 一宮地方総合卸売市場(株)社長(一宮市長))
- ・ 日時：平成18年12月3日(日)
午前9時から午後1時まで
- ・ 場所：一宮地方総合卸売市場(一宮市大和町氏永字仲林140-1)
- ・ 内容：ステージイベント：オープニングセレモニー、食育対談、よさこい踊り、親子せり市、太鼓演奏等
食育啓発コーナー：パネル展示、食事バランス相談、食材展示、豚汁の試食(先着700名、容器・箸を持参してください。)等
ブースコーナー：野菜・水産物の販売、マグロの解体・即売、各種団体出店等
- ・ お問い合わせ先：電話0586-44-1119(実行委員会事務局)



海部地域農業・農村活性化大会が開催されます

当農林水産事務所地域では、平成 17 年 10 月に 2010 年を目標とした「食と緑の基本計画・海部地域推進プラン」を策定しました。このプランでは、「安全・安心な食と暮らしの確保」、「力強い農林水産業の育成」並びに「ふるさと海部の再生」の 3 つのスローガンを掲げ、このスローガンの達成に向けた 10 項目の重点的取り組み等を進めることで水郷海部の暮らしを守るとともに農林水産業を振興することとしております。

こうした中、海部地域の農林水産業の一層の発展並びに農村の活性化を図るために、飛島村中央公民館において来る 11 月 26 日（日）に地域の農林水産業者が一堂に会して「海部地域農業・農村活性化大会」が開催されます。この大会は、4 年毎に開催されており今回が 4 回目となります。

当日は、マリ クリスティーヌ女史の記念講演、モリゾーとキッコロとの記念撮影会を始め農林水産業の P R、農産物の即売、金魚すくい等も行われますので、是非足を運んでいただき、海部の農林水産業をまるごと見て・触れて・楽しんでみませんか。

なお、関連行事として、同日の午前中には、同じ会場で海部苗木花卉生産組合連合会の設立 50 周年記念大会も開催されます。

【大会の概要】

- 1 主催
海部地域農業・農村活性化大会実行委員会
（海部地域の 19 農水産団体で組織）
- 2 開催日時及び場所
平成 18 年 11 月 26 日（日） 10:00～16:50
飛島村中央公民館（飛島村役場北隣り）
- 3 開催内容
 - (1) 記念講演 講師 マリ クリスティーヌ女史
 - (2) 記念式典
 - (3) 海部の農林水産物の展示・即売
 - (4) 海部地域特産物試食懇談会



前回の活性化大会の状況（記念講演）



前回の活性化大会の販売コーナーの様子

《講演会のお知らせ》

いずれも入場無料

10:00～12:00 （講演時間 10:30～12:00）

講師：ジョン ギャスライト 氏

演題：花や木から学んだこと ～身の回りの環境を見直そう～

14:00～16:50 （講演時間 14:00～15:40）

講師：マリ クリスティーヌ 氏

演題：愛・地球博の贈り物とお互いさまのボランティア

席にまだ余裕があります。多くの方の御参加をお待ちしております。

京浜市場愛知県野菜連絡会トマト研究会からの提言について

平成18年10月12日に京浜地域の卸売会社で組織されている京浜市場愛知県野菜連絡会トマト研究会が、豊橋市のJAあいち経済連東三河センターにおいて産地会議を開催しました。

当日は、東三河地域の生産者やJA担当者、JAあいち経済連担当者と愛知県の農業改良普及課担当者が参加し、産地の情勢、市場の情勢について意見交換を行いました。

会議では、京浜市場愛知県野菜連絡会トマト研究会から、県内トマト産地に対して、愛知産の丸トマト、ファーストトマト、ミニトマトを有利に販売していくための提言がありましたので、その内容を紹介します。

1 丸トマト

量販店は、気温の上昇する3月からスプリングフェアとしてトマトを売り込んでいくため、売場が活性化する。

しかし、愛知産の丸トマトは作型の変更により、10年前と比較すると3月の入荷量は約半分、4月の入荷量は2/3程度となっている。

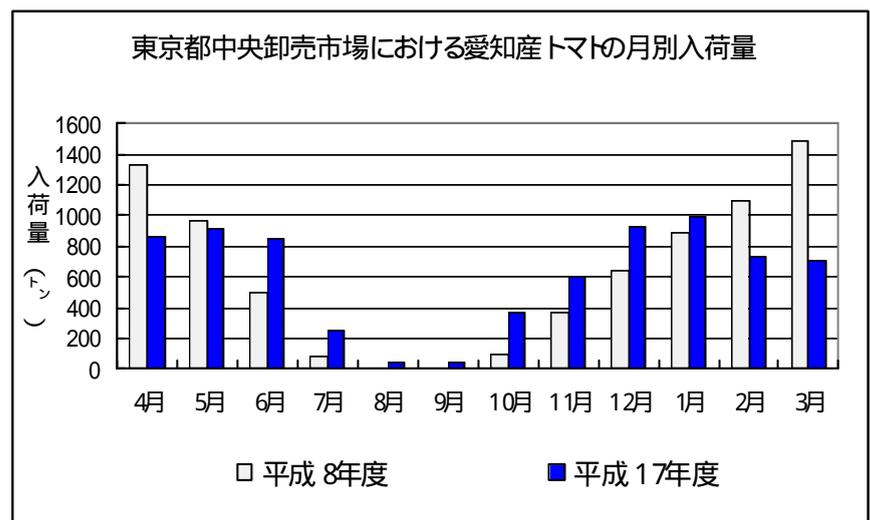
産地としては重油の高騰などで苦勞されていることは十分承知しているが、5月、6月の愛知産トマトを有利に販売するためには、売場の活性化する3月、4月に売場を確保できるよう出荷していただきたい。

2 ファーストトマト

ファーストトマトは食味のよい品種として、愛知産トマトの販売には欠かせない商材としての地位を占めてきた。また、量販店などから「他とは違うトマトを」という要望に、丸トマトとは形状や食味の異なる愛知のトマトとして、ファースト

トマトをアピールしてきた。

しかし、ここ数年ファーストトマトのセールスポイントである「食味」が全体的にやや落ちてきているように感じられる。現状の食味では普通のトマトと変わらず、消費者の評価を得られず、市場での価格も確保できないため、生産



量も減少してしまうことになる。

この対応策として、ファーストトマトの食味を総合的にレベルアップし、「ファーストトマトは丸トマトとは違う」という販売カテゴリーを維持し、消費者の心をつかむことが必要である。このためには、産地は、高糖度（糖度8度以上）とまでいかななくても、7度以上の糖度となるよう、食味を追求した栽培を行い、市場における評価を積み上げ、販売実績を作っていく。

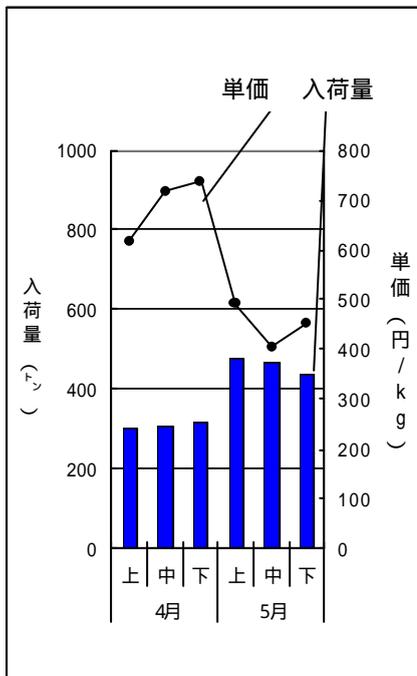
3 ミニトマト

入荷量が増え、価格の低迷する5月の販売をどのように乗り切るかがミニトマトの課題となっている。5月は、ゴールデンウィーク明けに全国の産地から一気に入荷し、価格が下落するため、これ以後、販売の低迷が続き、荷動きは悪くなる。

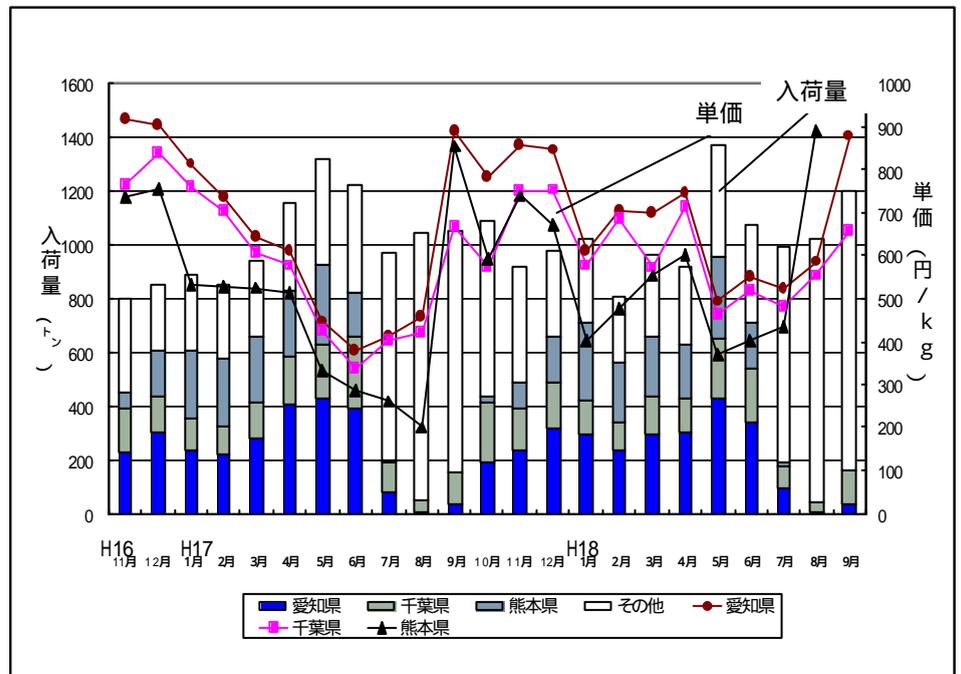
5月以降の販売につなげていくためには、連休中の販売荷物を求めている量販店に対して、産地はこれまで行っていない連休中の出荷と早めの売り込みに加え、卸売会社も安めの価格で積極的に売り込みにより、荷物を回転させ次の注文を発生させることにある。また、これらの対応と合わせて消費宣伝を行う必要がある。

このためには、価格をリードする愛知の産地の協力を得ながら、愛知のミニトマトを積極的に販売していきたい。

東京都中央卸売市場における
4月、5月のミニトマト入荷量
と単価（18年）



東京都中央卸売市場におけるミニトマトの入荷量と単価



全国物産観光センターを御存知ですか

名古屋市中区栄にある中日ビルには、都道府県の事務所が集まる全国物産観光センターがあります。これらの事務所は、企業誘致・観光案内を中心に様々な業務を行っています。今回は特に農林水産に関する業務を行っている県を中心に全国物産観光センターを御紹介します。

全国物産観光センターの概要

中日ビル内には、次の17都道府県が事務所を構えています。

北海道	青森県	岩手県	秋田県	福島県	群馬県
富山県	石川県	長野県	岐阜県	静岡県	滋賀県
和歌山県	島根県	徳島県	高知県	福岡県	

各事務所は、観光情報を中心に特産品の紹介やI・Uターン情報等の各種パンフレット類を置き、気軽に利用できる雰囲気を作っています。また、実際に特産品を販売している事務所もあり、お目当ての品を探しに来るお客さんもいるようです。

青森県名古屋情報センター

青森県は2人の職員が駐在しており、岩手県、秋田県と合同で事務所を構え、観光案内や企業誘致等を行っているほか、東海三県でのりんごの消費宣伝や販路拡大に力を入れているそうです。10月から3月のりんごのシーズンには、量販店を中心に販売促進を行っています。特に、「青森りんご専門販売員養成活用事業」により、(社)青森県りんご対策協議会は愛知県内の卸売会社の担当者を対象に青森のりんごの専門知識の講習を行い、この担当者がマネキンを養成し、りんごの販売促進を行っています。17年度は東海三県の120店舗で販売促進を行い、18年度もほぼ同規模を予定しているとのこと。これから本格的なりんごのシーズンを迎えるので、青森県りんごの販売促進活動を見かけることがあるかもしれません。その他にも、りんごの消費拡大を図るため、スーパーなどと協力して青森県産りんごの試食、宣伝、販売等を全国規模で行う「青森りんご祭り」を開催しており、東海三県で実施する店舗等の取りまとめを行っています。

徳島県名古屋事務所

徳島県は5人の職員が駐在しており、平成17年2月に中村区から同ビル内に場所を移し、主に観光案内やI・Uターンの相談等を中心に行うほか、特産物も

販売しています。徳島県の農産物は京阪神の主要市場において販売額1位を占め、中京地域においても多くの農産物を販売するなど、農業が盛んな県です。徳島県は16年度から「新鮮とくしまブランド戦略」を推進しており、ブランド品目の育成、オンリーワン産地の育成、とくしまブランドの浸透など、「とくしまブランド」の定着を図っています。

この「とくしまブランド」を効果的に浸透させるため、トラックを改装した移動ブランドショップ「新鮮なっ！とくしま」により、県内外の消費地で積極的にPR活動を行っています。17年度は愛知県で3回、焼きしいたげやちりめんにすだちを搾った料理、なると金時の試食販売を行い、各回ともに大勢の人で賑わい、成果を上げています。

また、徳島県名古屋事務所では、徳島県アンテナショップ会員を募集しており、会員は徳島県及び四国の観光・物産展の情報をダイレクトメールで受け取れるほか、アンテナショップでのイベント情報も届けられるなどの特典があり、会員数も年々増加しているとのことです。取材当日も、店内には熱心に商品やパンフレットを見るお客さんの姿が見られました。



徳島県名古屋事務所内のショップの様子



なると金時の販売

その他の事務所の様子

青森県、徳島県の他にも富山県では、特産品である花の球根を販売しており、取材当日は、すいせん、クロッカス、チューリップの球根を販売していました。

また、群馬県の事務所では、県内の特産品と観光情報を合わせて紹介したパンフレットが多数置かれていました。

近年、アンテナショップや物産展等の人気は高く、インターネットを利用した食品を始めとするご当地ものの販売も好調のようです。全国物産観光センター内の各事務所では職員に気軽に質問等ができ、物産、観光に限らず様々な情報を集めることができます。

今回の取材を通して、愛知県も多くの情報を発信し、県内外の人に魅力を伝えていかなければならないと感じました。

フラワーデザイナーの考える素材としての花

生産者の方々から、どんな花を我々が望んでいるのか、どういう花が売れるのかという質問をよく受けます。生産過程の大変さを全て理解しているわけではありませんが、毎日休むことのできない花の世話、出荷できるまでの月日を想像した時、こんな花がほしいなんて気軽に口に出すことはできません。作品をデザインし、制作するときには花材をあれこれ選択するわけですが、使いたい花材は作りたい作品によって多種多様です。この多種多様なものに亘るといことが生産者サイドからの質問に、安易に答えられない理由です。

花店で使う花材の多くは、作業のしやすさや流通事情もあって、真っ直ぐな枝・茎に作られたものが多いようです。スタンド花や花束などには、しっかりした、曲がっていない枝・茎が使いやすいからです。



真っ直ぐなものを使いたい作品もあります。茎を並行に配置し、枝・茎の並行を表現する作品では、並行を作りやすい素材が望めます。しかし真っ直ぐな枝・茎を望みながらも、作品に変化をつけるために曲がった部分も必要です。幸いなことに、造花と違い生花の場合、茎は真っ直ぐでも一輪ずつ花の向きが異なり、それぞれオンリーワンらしさを保ち、それが作品に自然さを与えてくれます。



エレガントな曲線を持った素材を使いたい作品です。それぞれの花の持ち味でもある茎の曲がり具合は、柔らかさと自然さを表現してくれると同時に、不規則な曲がり具合をまとめるという難しさもデザイナーに与えてくれます。それが花を使って作品を創るおもしろさでもあるのです。花材に自然さや優しさを求めたときに、流通上の等級の上のしっかりした、真っ直ぐの花ではなく、生産者の方が出荷をばかるといような、少々曲っていたり、茎が柔らかい素材が時には欲しくなります。

ほとんど花を使わないで、葉や枝だけで作品を作ることもあります。



その時その時に興味を持つ素材、欲しい花材は違いますが、いつも共通しているのは、素材の特性・個性を活かすこと。料理人と同じで、素材の持つ性格を見て、それを活かして作品にしていきます。花の王国といわれる愛知の花をみつめ、愛知の花ならではの作品が考えられたらと思います。

愛知産青果物の動向

名古屋中央卸売市場(品目:しゅんぎく)

	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	うち愛知産		
17年実績	100	83 (83%)	331	315	岐阜 (6%) 高知 (6%) 群馬 (3%)
18年見通し	90	-	350	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>雨が少なく天候が安定しているため、生育は順調である。愛知は一部で高温の影響による生育遅れも見られるが、気温の低下に伴い入荷量は増え、需要も増えてくる。11月の入荷量は入荷量の多かった前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>			<p>しゅんぎくは鍋の具材として定番であったが、近年は水菜に変わりつつある。しゅんぎくは香りが良く、鍋の具材として利用する以外に、おひたしにしてもおいしい。販売促進ではこういった新たな食べ方を提案していきたい。</p> <p>生産者には、虫の混入等を防ぎ、安定出荷を心がけるようお願いしたい。</p>		

東京都中央卸売市場(品目:ぎんなん)

	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	うち愛知産		
17年実績	66	9 (14%)	1,575	2,288	大分 (14%) 福岡 (12%)
18年見通し	95	-	1,100	-	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知産は10月が入荷のピークで今月からは減少傾向となり、大分、福岡など九州産地の入荷が増加してくる。昨年は裏年であったため入荷量が少なく価格高となったが、今年もやや不作傾向となっている。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>			<p>ぎんなんは秋の味覚として業務筋を中心に安定した需要がある。愛知産は9月から本格的に入荷が始まり、一部にカビの発生などがみられたものの、全体的には品質は良好である。今年から共選による出荷が始まったが、これまで順調に推移している。</p> <p>今後は品質のばらつきを少なくして、栽培面積の維持と安定出荷をお願いしたい。</p>		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
		全 国 平成17年 = 100 愛知県 平成17年 = 100				
全 国	18年 4月	100.1	105.3	89.6	100.5	103.4
	5月	100.4	107.1	105.1	100.6	102.4
	6月	100.4	105.6	112.8	100.2	101.1
	7月	100.1	100.8	101.3	100.7	101.4
	8月	100.8	119.1	111.0	101.1	104.1
愛 知 県	18年 4月	99.8	100.4	92.8	98.4	106.6
	5月	100.2	107.1	103.3	99.5	105.6
	6月	100.4	106.1	111.6	99.3	101.6
	7月	100.2	98.9	105.5	101.0	103.2
	8月	100.8	119.4	109.9	100.7	105.6

項目 年月		農業物価指数 (平成12年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
17年平均		99.7	91.9	104.7	90.7	109.3
18年	4月	106.2	92.0	122.0	104.1	107.2
	5月	100.7	92.4	109.8	92.6	108.0
	6月	101.0	92.8	113.7	106.5	109.6
	7月	93.7	87.7	103.4	94.5	110.3
	8月	102.8	92.0	109.1	105.6	107.6

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち	キ	は	ね	レ	ば	だ	に	た	き	ト	生	り
	米 (単一品種、 「北加」以外)	ャ ベ ツ	く さ い	ね ぎ	タ ス	れ い し よ	だ い こ ん	に ん じ ん	た ま ね ぎ	き ゆう り	ト マ ト	し い た け	ん (ご ふ じ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年 4月	2,247	186	197	538	359	290	195	379	220	486	683	187	511
5月	2,255	218	230	616	410	296	165	461	235	425	625	195	539
6月	2,264	196	246	619	337	276	163	387	202	466	562	174	573
7月	2,255	151	181	563	280	291	160	374	203	437	523	193	562
8月	2,239	197	291	665	497	291	229	484	214	564	619	198	-
品目 単位 年月	み	グ	オ	い	バ	キ	緑	カ	き	バ	豚	牛	ま
	か ん	レ フ ル プ ツ	レ ン ジ	ち ご	ナ ナ	ウ フ イル ツ	せ 茶 茶)	カ ネ シ ヨ ン	く	ラ	豚 口 肉 ス)	牛 口 肉 ス)	ま ぐる
	1 kg	100g	1 本			1kg							
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年 4月	-	350	378	123	250	643	617	160	173	321	231	741	493
5月	-	350	361	129	243	634	617	186	158	322	240	767	489
6月	-	379	404	-	244	767	617	171	168	312	226	781	491
7月	-	316	406	-	243	699	599	166	157	295	234	827	498
8月	-	335	409	-	253	724	312	156	175	299	238	819	497

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか	:	± 2 % 台以内
やや	:	± 3 ~ 5 % 台
かなり	:	± 6 ~ 15 % 台
大幅	:	± 16 % 以上



あいち農産物生産流通レポート 401
平成18年11月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417